

1. 高崎商科大学の教員養成の理念

高崎商科大学の建学の精神（「自主・自立」）・教育理念（「実学重視」・「人間尊重」・「未来創造」）に立脚し、全学的な指導体制のもとに「未来の人類社会を創造する若者の学習の権利を支援する教員の養成」を理念と定める。

2. 高崎商科大学の教員養成の目的

- （１）探究心を抱き、自律的に学び、問題解決学習ができる教員の育成
- （２）積極的に新しい知識と技能をキャッチし「継続的な学び」ができる教員の育成
- （３）教員としての発達段階に応じた教職の専門性を獲得する「個別最適な学び」ができる教員の育成
- （４）他者との対話を通して省察し、「協働的な学び」ができる教員の育成

3. 商学部が目途として育成する高校教員像

- （１）問題解決学習力と倫理性・協働性をもって生徒のための教育ができる高校教員の育成を目途とする
- （２）教育学・心理学の学問を修め、その上での高度な教職の専門性を身に付け、生徒を理解し、生徒の主體的な学びを保障するための専門的知識とスキルを身に付けた高校教員の育成を目途とする
- （３）高度なデジタルリテラシーと情報処理能力を身に付けた高校教員の育成を目途とする
- （４）経営学・会計学、商学の高度な専門性を身に付けた高校教員の育成を目途とする
- （５）予測困難な社会の到来を踏まえて、未来を想像でき、新しい概念や価値を構築できる教養と専門性を身に付け続ける学びができる高校教員の育成を目途とする

4. 各年次における目標と計画

上記５つの目標を達成するために、各年次における目標と計画を以下のように設定する。

〈１年次〉

前期は教育、教育学、教育史、教育思想の基本的概念を修得する。生徒の心身の発達のプロセスと特質を理解し、併せて学習の過程に関する基礎的な考え方を修得する。また、学校ボランティア等の活動を通して、学校現場の実際の一端を理解する。

後期は教職の意義や役割、職務内容、チームとしての学校運営の対応について理解する。またチームとしての学校における教育相談のあり方、教育相談とカウンセリングの姿勢や技法、教育相談の展開について理解する。履修カルテにより自己評価を行い、自己の学修の現状把握と改善の方法について理解する。さらに、道德教育の理論とその指導法を修得する。

学科での学びにおいては、基礎教養を中心とした科目を履修し、学校教育を担う上での一般教養を身に付け、大学４年間の学修計画や進路等のキャリア意識の醸成を行う。経営学、会計学、経済学、情報科学に関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、地域との関りについて学び、教養の基礎の確立及び専門科目への導入を行う。

〈２年次〉

前期は近年の教育改革の動向、現代の公教育の理念、学校制度の概要、学校経営、学校安全や危機管理等について理解する。またチームとしての生徒指導の意義と生徒全体と個別に課題を扱う生徒への指導原理とその方法を修得し、併せて進路指導・キャリア教育の意義と理論、そしてガイダンスとカウンセリングを通じた指導を修得する。また教育方法の基礎的学習理論、基礎的指導技術、学習指導案の作成、学習評価の基本的考え方について理解する。他方、教育課程の意義及び編成の方法、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。そして横断的・総合的な問題解決学習、すなわち「総合的な探究の時間」の意義と原理、指導計画、指導と評価についても学修する。

後期は特別に支援を必要とする生徒の理解と支援方法を修得する。また学校現場における ICT 活用、教育のための ICT 活用の諸側面について学び、情報活用能力を育成するための指導法について修得する。履修カルテによる自己評価を実施し、自己の現状把握と改善を行い、「継続して学ぶ」姿勢を修得する。

学科においては、組織で協働できる能力とマインドを養成し、自身のキャリア形成を考えることで、教養教育のまとめとする。また、経営学や会計学への導入学修を行い、学科の専門性に関連する基礎的知識の修得を進める。一方、多様で変化の激しい社会を理解するため、AI 基礎や情報科学に関連のある学修を行い、国内外の社会情勢についても学ぶ。専門教育では、徐々に専門性の高い学びに移行し、経営、会計、情報、マーケティング、組織等についての学修に入る。

〈3 年次〉

前期は実習希望県の教員育成指標なども視野に入れつつ基礎的な教育実践力の体得と向上を目指す。教育実習に向けての心構えや教育実習校の理解を通して前年に学修したカリキュラムデザインの基本的編成原理や授業づくり、基礎的な学習理論や指導技術等を振り返りながら、教科指導を行う上で必要とされる基礎的な知識・技能の定着を図る。さらには学習指導要領における商業科・情報科の意義、目的を理解し、商業・情報分野の科目知識と基礎的指導技術について学ぶ。

後期は主に教育実習に向けての心構えや基礎的授業技術の向上を図る。学習指導案を作成し、模擬授業の実施と相互批評を通して省察し、課題を発見し、克服するように指導する。学習指導要領における特別活動の位置づけと、特別活動の意義と目的、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、年間指導計画等について理解し、指導計画・単元計画の作成とその指導法と技術を修得する。また学校ボランティア等を通じて学校現場の理解を深める。さらに前期に引き続き教科指導の方法について学び、科目知識と指導技術の向上を図る。併行して、履修カルテによる自己評価による現状の把握と改善を行う。

学科の学びでは、経営学・会計学・経済学・情報科学の基礎的知識を展開させ、より専門に特化した学修を行う。またこれらの内容を踏まえ、他の学問分野を含んだ発展的で実践的な科目を中心に授業を行う。これによりビジネスの側面から社会や組織を理解する。また、ゼミではそれぞれの専門分野に関連した卒業研究の準備に入る。

〈4 年次〉

前期は教育実習を行う。高等学校で2週間以上の実習を行い、教育実習生としての遵守義務を理解し、観察及び参加実習の意義を把握し、学習指導案の作成能力及び教師として必要な実践的指導のスキルを修得する。また、学校教育を取り巻く環境や諸課題に触れ、問題解決へ取り組む理論と方法を意欲的に学ぶ態度を養成する。

後期は、今まで行ってきた教職課程の学び全体を通し「学びの軌跡の集大成」として、教材研究、学習指導案や学級経営案の作成、学校フィールドワーク、ロールプレイング、マイクロティーチング、模擬授業等を行う。これらの活動を通じて生徒理解、教科等の指導力、対人関係能力について理解を深め、教育に対する使命感や責任感を醸成し、対話を通して省察し、学び続けることができる基礎的資質と能力を修得する。

学科の学びにおいては、自身が専攻している分野と異なる分野を含んだ発展的な知識を踏まえ、事例研究やプロジェクト型の学修等の実践的な学びを行い、経営、会計、経済、情報等に関する理論の深化を図る。また、4年間の総括として卒業研究に取り組み、自身が学んできたことを整理し理解を深める。

〈その他〉

教職課程の様々な行事などを通して、教員養成の理念・目的・教員像の修得につとめる。